



ルツ・コンバルム
短期大学部英語科 講師
専攻分野は「英語教育、コミュニケーション」、
長期研究テーマは「Cultures」、
主な担当科目は「地域文化概論」。



What Do You Really Know about Africa?

Ruth Nkombalume

Africa is often misrepresented both in the media and in most textbooks used around the world. The goal of the course is to introduce various cultural aspects like food, lifestyle, customs, music of Africa and to show how diverse Africa really is as a continent (not a country!) both geographically and in the ways of life.

I help students: 1) to see and discover the real Africa and confront their media stereotypes and misrepresentations of Africa; 2) to be able to describe the practices, traditions/customs of Africa and relate the cultural characteristics, differences and similarities with that of Japan; 3) to understand the impact of colonialism on the continent and its effects on modern Africa.

In class, students work individually, in pairs and in groups. They are assigned a different region of Africa, and they research the language families (ethnic groups) and their culture/customs, food, traditional music and cultural differences from their region. They are required to do a lot of research online, read books on African cultures in the library, and watch some video clips on YouTube on Africa. They run the group discussions (jigsaw type discussions) and present their findings in class.

I would like my students to set high standards/goals for their academic achievements not just the grade: to be independent learners and become critical thinkers.



私のクラス

アフリカについて本当に知っていることは何でしょう?

メディアでも世界中で使われている教科書の大半でも、アフリカはしばしば誤って描かれています。このクラスの目標は、食物、ライフスタイル、習慣、音楽等、アフリカのさまざまな文化を紹介し、ひとつの大陸(国ではなく!)として、地理的にも生活面においても、アフリカがいかに多様性を備えているかを示すことです。

私は学生達が次のことができるよう援助します。1) 本当のアフリカを知り、メディアのステレオタイプや誤った表象を批判的に見る。2) アフリカの風習、伝統や習慣を説明したり、日本の文化的特徴との類似点や相違点と関連づけられるようにする。3) アフリカ大陸における植民地政策の弊害や現代のアフリカに残る影響を理解する。

授業で学生達は一人、ペア、グループで作業をします。アフリカの一地域を担当し、その語族(エスニックグループ)と彼らの文化や風習、食物、伝統音楽を調べ、自分達の地域の文化との違いも調べます。インターネットで調べたり、図書館で本を読んだり、YouTubeの映像を見たりすることが必要です。毎回異なるグループで討議し、発見したことを発表します。

私は学生達に、単位を取るだけではなく、高い目標を持ってほしいのです。自立した学習者であり、批判的に考える人になる、という目標です。

International Friendship

相手に伝えること

小島 弘憲(数理工学情報研究科1年)

2011年3月6日から3月19日の14日間、NICTA (National ICT Australia) でインターンシップを行った。

NICTAとはオーストラリア政府によって2002年に設立された研究機関である。現在4つの都市に5つの研究所があり、700人を超える社員がいる。私はATP(Australian Technology Park) 研究所のビジネスプロセスと相互運用研究チームに参加した。

インターンシップ先で行ったことは次の3つ。「Reading Group」博士課程の学生による研究発表「自分の研究発表」である。

Reading Groupとは博士課程の学生が他の研究者の論文を発表し、その内容に対して参加者で議論を交わすことである。博士課程の学生1人、研究者3人、私の計5人が参加した。発表途中での質問が許されていることもあり、ほとんどの時間が議論に費やされた。そのため、ときには発表が終わりきる前に論文の提案が実現不可能だと結論づけられることもあった。

博士課程の学生の研究発表では4名から研究発表を聞いた。1人の発表時間は質疑応答を含め1時間である。彼らの発表内容はクラウドコンピューティングが3人、Webサービスが1人であった。クラウドコンピューティングの研究発表者の多くはIaaS(Infrastructure as a Service)レイヤーを研究領域にしていた。例えば、仮想マシン起動遅延を解消するための予測起動システムのアーキテクチャやサーバにあるアプリケーションをクラウドにレプリケーションするコストを計算するメトリクスなどの研究である。



オーストラリアでの仲間と一緒に(筆者:左から3人目)

私の研究発表では学部での研究「SOAに基づくクラウド間連携アーキテクチャ」を発表した。発表時間は15分、質疑応答は10分である。発表前には研究者や博士課程の学生から発表の添削を受け、スライド1枚で2分発表するなど、NICTAのプレゼンテーションスタイルの指導を受けた。

私はオーストラリアでのインターンシップを通して生活習慣から研究の考え方まで多くのことを経験した。特に私の研究を伝えることは難しく、その難しさから学んだことも大きかった。

私は発表するまで、内容を美しい英語に直しさえすれば、私の研究を相手に伝えることができると思っていた。しかし、博士課程の学生や研究者から、たくさんの質問を受け、その質問の内容から私の研究内容や意味が伝わっていないことがわかった。このままでは終われないと思った私は質問してくれた研究者と博士課程の学生に発表時間とは別に議論する時間を作ってもらうことをお願いした。そして、彼らと1対1で話してやりと理解してもらえ、私の発表に足りなかったことについて気づくことができた。それは私が聞き手の研究領域と自分の研究層の違いを意識して発表していなかったということである。

私は今、大学院で専門技術を学んでいるが、その知識を誰かに伝えるときには私と聞き手の違いを明確にし、それを踏まえ伝えるように意識している。また、インターンシップで出会った博士課程の学生と自分を比較することで自分を見つめ直し、大学院でより良い研究ができるように努めている。

最後に、NICTAのインターンシップに参加することができたのは指導教員の青山幹雄先生(情報理工学部ソフトウェア工学科教授)、Hiroshi Wada (NICTA Researcher Scientist)、Liming Zhu (NICTA Senior Scientist)、南山大学関係者の皆様のご協力があったからである。この場を借りて厚く御礼申し上げる。



実際に研究材料を提示し説明

南山大学タイムスリップ写真館

温故知新、放きを温めて新しきを知る...南山大学広報誌「NANZAN bulletin」の新コーナー「南山大学タイムスリップ写真館」の開設です(今後、不定期で掲載予定)。

1974



撮影年:1974年
場所:南山大学名古屋キャンパスG30教室
被写体:ミカエル・カルマノ(写真右端)
(当時:南山大学文学部神学科生)
・南山大学文化系クラブ文化会所属団体
・メルクワイヤー
(1974年当時のメンバー)

2011



撮影年:2011年
場所:南山大学名古屋キャンパスG30教室
被写体:ミカエル・カルマノ(写真右端)
(現在:南山大学第6代学長)
・南山大学文化系クラブ文化会所属団体
・メルクワイヤー
(2011年6月現在のメンバー)

Information

◆ 2010年度 学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生31名に、その努力と栄誉を称え、3月18日、学長から表彰盾と副賞が手渡された。

【人文学部】	7名	【法学部】	3名
【外国語学部】	7名	【総合政策学部】	4名
【経済学部】	3名	【数理工学情報学部】	4名
【経営学部】	3名		

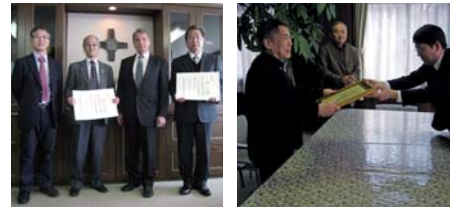
◆ 2011年度 学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生124名に、昨年1年間の努力を称え、表彰式が人文学部は6月15日、外国語学部は6月22日、経済学部・経営学部は6月8日、法学部は7月6日、総合政策学部は6月1日、情報理工学部/数理工学情報学部は5月25日に行われた。

【人文学部】	21名	【経営学部】	14名
【外国語学部】	24名	【法学部】	15名
【経済学部】	15名	【総合政策学部】	21名
【情報理工学部/数理工学情報学部】	14名		

◆ 名誉教授称号授与

今春退職された外国語学部 宮川佳三教授、経済学部 申七郎教授、短期大学(現短期大学部) 近江誠教授に対し、その功績を称え名誉教授の称号を授与した。授与式は3月30日(近江氏)、4月2日(宮川氏、申氏)に行われた。



学長ストラップ 新装版完成! 好評発売中!

今回の学長ストラップは、ミカエル・カルマノ学長が三匹のかわいいかエル[3(ミ)カエル]を連れ立っています。
[名古屋キャンパス/コバ3階 NES(ネス)、瀬戸キャンパス/E棟 学生会館 丸善にて販売]



南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市長和区山里町18
Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail:gaku-koho@nanzan.ac.jp
http://www.nanzan-u.ac.jp/

◆ 退職

2011年3月31日付
●人文学部 教授 神谷 俊次
GP嘱託講師 濱田 祥子
●外国語学部 教授 宮川佳三
客員教授 石田 訓夫
准教授 Mark, Wright (2011年1月6日付)
●経済学部 教授 申 七郎
教授 川崎 勝
●法学部 准教授 栗本 雅和 (2011年4月12日付)

◆ 2011年度新任用教育職員

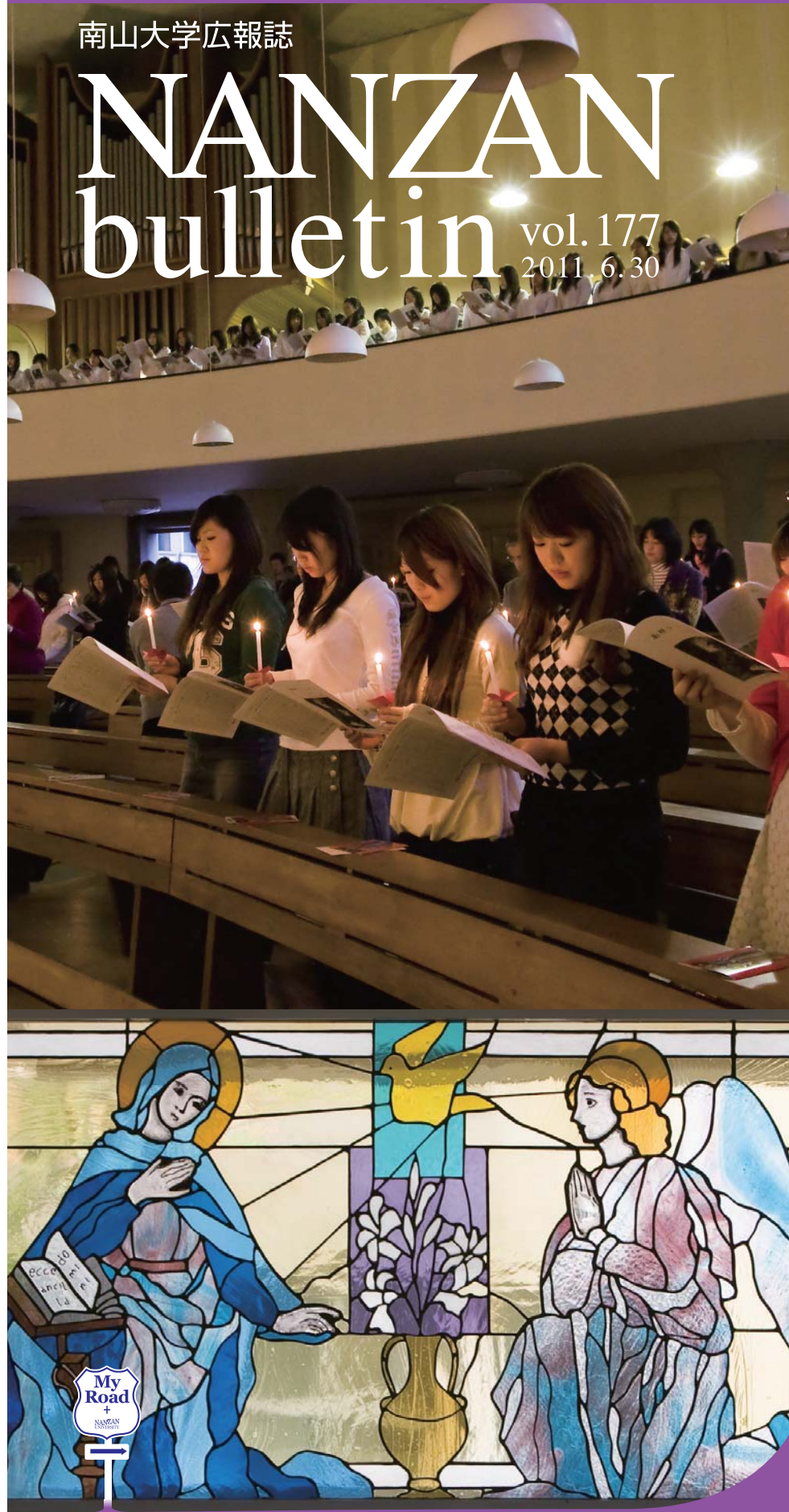
●人文学部 准教授 藤田知加子(専攻分野:実験心理学、認知心理学)
講師 土屋 耕治(専攻分野:社会心理学)
講師 森田 貴之(専攻分野:日本文学、中世文学)
GP嘱託講師 松本麻友子(専攻分野:教育心理学、臨床心理学)
●外国語学部 講師 宮原佳昭(専攻分野:中国近現代史)
●経営学部 准教授 松井 宗也(専攻分野:統計学)
●総合政策学部 准教授 三輪まどか(専攻分野:社会保険法)
講師 大庭 弘継(専攻分野:国際政治学)
講師 前田 洋枝(専攻分野:環境社会心理学)
講師 鶴見 哲也(専攻分野:環境経済学)
●情報理工学部 教授 三浦 英俊(専攻分野:都市・地域計画学、オペレーションズリサーチ)
講師 Reginald, Alva(専攻分野:キリスト教神学(霊性神学))
●短期大学部 教授 David, Kluge(専攻分野:英語教育、CALL)
●英語教育センター 語学講師 Christopher, Davanzo(専攻分野:英語教育)

◆ 学位

山田 哲也 教授 総合政策学部総合政策学科 博士(法学) 九州大学 2010年10月31日付
森 千香子 准教授 外国語学部フランス学科 博士(社会学) フランス社会科学高等研究院 (Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales) 2010年9月14日付
石原美奈子 准教授 人文学部人類文化学科 博士(法学) 東京大学 2009年11月12日付
吉田 竹也 教授 人文学部人類文化学科 博士(人間科学) 大阪大学 2008年5月27日付

寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力で感謝いたします。
假山 愛博 様
村瀬 孝司 様
野村 京子 様(書籍)
※今回は2011年4月末までにご寄付いただきました方のみ掲載させていただきます。5月に際にご寄付いただきました方につきましては次号にて掲載させていただきます。



未来へつづく道。

NANZAN UNIVERSITY

Campus Topics

第52回 上南戦 戦績

6月3日から6月5日の3日間にわたり、第52回上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)本戦が開催された。今年度は上智大学を会場校として開催する予定であったが、東日本大震災の影響により体育館が損害を被るなど、上智大学での開催が困難となったため、昨年度に引き続き、本学を会場校として開催された。上南戦前日までは雨の日が続いたが、上南戦の3日間は快晴の日が続き、各種競技にて熱戦が繰り広げられた。結果は南山18勝、上智12勝、本学の総合優勝で幕を閉じた。

スキー	南山	5 - 7	上智
ヨット	南山	2 - 0	上智
ゴルフ	南山	25 - 40	上智
バスケットボール(男子)	南山	62 - 100	上智
バスケットボール(女子)	南山	85 - 39	上智
ラクロス(男子)	南山	3 - 12	上智
ラクロス(女子)	南山	4 - 5	上智
陸上競技	南山	125 - 111	上智
バレーボール(男子)	南山	1 - 3	上智
バレーボール(女子)	南山	3 - 0	上智
弓道(男子)	南山	105 - 82	上智
弓道(女子)	南山	48 - 32	上智



上智大学×南山大学「合同進学相談会@上南戦」

6月4日(土)、昨年度に引き続き、第52回上南戦の開催に合わせて、本学名古屋キャンパスC棟1SYOKUにおいて受験生を対象に上智大学×南山大学「合同進学相談会@上南戦」が開催された。上智・南山両大学のスタッフ・在学生による個別相談コーナーや、保護者向けキャリアガイダンス講演会、河合塾による南山大学受験対策講座、上南戦観戦ツアーなどがおこなわれた。来場者は約280名にのぼり、来場した高校生たちはカトリックの絆に結ばれた両大学の熱い闘いを感じつつ、在学生が語る学生生活や受験対策に熱心に耳を傾け、過去問題閲覧コーナーでは真剣な



南山大学総合優勝

総合成績:18勝12敗

第1回大会からの通算成績:南山16勝 上智31勝 引分5

卓球(男子)	南山	4 - 3	上智
サッカー	南山	2 - 1	上智
柔道	南山	3 - 2	上智
バドミントン(男子)	南山	2 - 3	上智
バドミントン(女子)	南山	3 - 2	上智
アメリカンフットボール	南山	17 - 13	上智
剣道(男子) (本数勝ち)	南山	2 - 2	上智
剣道(女子) (本数勝ち)	南山	2 - 2	上智
アイスホッケー	南山	2 - 3	上智
軟式庭球(男子)	南山	3 - 2	上智
軟式庭球(女子)	南山	5 - 4	上智
硬式庭球(男子)	南山	6 - 3	上智
硬式庭球(女子)	南山	1 - 4	上智
準硬式野球	南山	12 - 8	上智
水泳	南山	249 - 283	上智
ラグビー	南山	14 - 36	上智
ハンドボール(男子)	南山	41 - 36	上智
少林寺拳法	南山	1 - 4	上智



眼差して過去問題に見入っていた。また、会場に上南戦マスコットキャラクター・ライナくんが登場し、来場者たちを喜ばせていた。キャンパスツアーを兼ねた上南戦観戦ツアーでは、在学生の引率により、各種試合会場をめぐる、ツアー参加特典である上南戦オリジナル応援グッズをつかい、飛び入り応援を満喫する高校生も多数いた。今後カトリック修道会を設立母体とする上智大学と南山大学、合同で進学相談会を開催していく予定である。



南山短期大学から南山大学短期大学部へ

～言葉は人と人をつなぐ、「私らしさ」の輝きを世界でただひとつのものに～

南山短期大学創立40周年を記念して、南山短期大学友の会ならびに南翔会（南山短期大学同窓会）から寄贈されたステンドグラス「受胎告知」（現在R棟7階に設置されている）



南山短期大学から南山大学短期大学部へ

南山大学教学担当副学長 法学部法律学科教授 青木 清

2011年4月1日、南山短期大学英語科は南山大学短期大学部英語科に名称を変更し、これまで培った英語教育の経験を礎にして新しいスタイルの総合的な英語教育の創造がスタートしました。

短期大学部の教育の大きな特色として、まず、実践英語と全人教育を両立して、自立的に学ぶ姿勢を大切にしたい少人数教育を徹底していることが挙げられます。世界共通語としての英語は、インターネットなど地球規模の情報ネットワークの



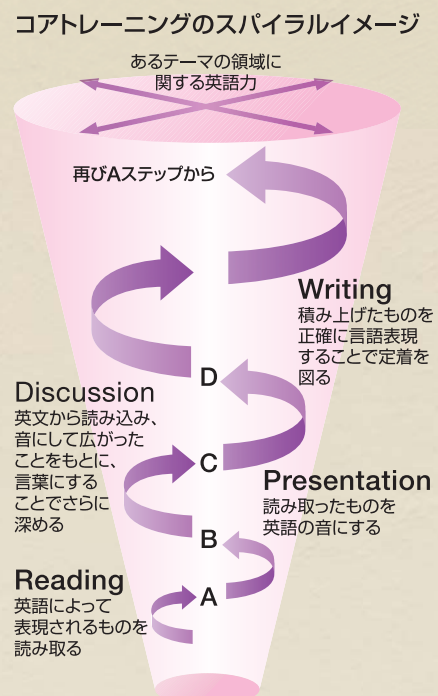
コアトレーニング科目群

短期大学部英語科のカリキュラムでは、英語で「読む、聞く、話す、書く」の4スキルを、音声トレーニングやスピーチなども取り入れて総合的に鍛える「コアトレーニング科目群」を学習の柱としています。

詩や歌詞、物語、小説、エッセイ、戯曲、スピーチ、新聞・雑誌の記事、広告等幅広いジャンルからクラスごとに選択した教材を「Reading」で読み解き、「Presentation」で解釈にもとづいて表現し、「Discussion」で討論のテーマとし、「Writing」では作文の素材とします。同一教材にもとづく作業を四つの科目を横断しリンクしながら行い、ABCのステップを繰り返すことで、テーマとなっている事柄の内容理解を深めると同時に、英語の運用能力を養っていきます。コアトレーニング科目の担当者はチーム内で進度や授業内容についての情報交換をしながら授業計画を立て、進めていきます。

コアトレーニングのクラスは「LC」※のクラスと同一で、扱う教材のテーマやトピックには、LCのプロジェクトテーマが含まれています。

※「Learning Communities」, 右上欄参照。



Learning Communities(学びの共同体)

「Learning Communities」(LC)は、2年間という短期間のうちに学生達が十分な学習成果を得るために、教員から援助を受けつつ、協働作業を通して学びの仲間を作り、共に成長することを目的として新規に設けられた授業科目です。この授業は学年全体で受ける講義(テーマ: Student Life, Academic Life, Career Design)と各指導生クラスで実施するプロジェクト(テーマ:Nanzan Discovery Project, International Under-

standing Project)から成っています。講義やプロジェクトをとおして、学生達は大学での学習に必要なスタディスキル、大学生に求められる一般常識や自律的な精神を身につけ、討論や表現の能力を向上させます。また、効果的なコミュニケーションの方法や良い人間関係の築き方も体験を通して学んでいきます。お互いに教えあい、学びあう「学びの共同体」の構築と実践がこの科目の中心です。

学生支援プロジェクト・ベタニアとLearning Peers

「Learning Communities」は、教職員と学生の距離が近く、学生同士が学年を超えて交流し学びあう短期大学部の特色を表す言葉でもあります。短期大学部の教職員が運営する「学生支援プロジェクト・ベタニア」の支援活動の一翼を担っているのが学生ボランティアスタッフ「Learning Peers」(LP)です。2年生LPが中心となってサポート役をつとめ、一般学生の学習や進路の相談相手になります。各種講習会や英語でのチャット等のプロジェクトの企画運営を通してLPの学生達も多くのことを学びます。

「ベタニア」は聖書に登場するエルサレム近郊の村。イエスがラザロ、マルタ、マリ

アの三兄妹と交流を楽しまれた場所です。短期大学時代には「ベタニア」と呼ばれる日本家屋が在校生・卒業生の憩いの場となっていました。〈ベタニアの心〉を受け継ぐ短期大学部の学生支援プロジェクトを「ベタニア」と名付けたのです。



ベタニア企画・筆記体講習会の風景

宗教音楽系サークル

短期大学時代は宗教教育委員会直属サークルとして、学内・学外の宗教的行事を彩ってきました。大学でも引き続き、活動を続けます。



左から バイブオルガン・サークル、ハンドベル・クワイヤ、Vox Angelica。

Special events

3.16

名古屋キャンパス新棟(R棟)竣工式

2011年3月16日、新棟(R棟)の竣工式が開催された。はじめに、東日本大震災で被災された多くの方々に祈りが捧げられた。

続いて、聖歌、聖書朗読、祝別と、カトリックの雰囲気の中で厳かに竣工式が執り行われた。式の中で挨拶に立ったミカエル・カルマン学長は、「不安が多い



時であるからこそ、私達は祈りを捧げます。」と述べた後、新棟(R棟)に関して、「ここに新しく誕生したフラッテンホール、ワールドプラザなどの施設は教室と研究室をつなぐ共通の場・交流の場であり、また学生の自由な活動の場、南山大学の国際性を具体的に示す場になることを期待しています。」と述べた。

3.19

保護者のためのオープンキャンパス

2011年3月19日、名古屋キャンパスにおいて「保護者のためのオープンキャンパス」が開催された。個別相談コーナー、卒業生によるトークライブや在学生による留学体験紹介などが催された。模擬授業に参加した保護者は、学生・生徒であった頃に戻ったように熱心に耳を傾けていた。

春らしい日差しが心地よい晴天となり、約300名が来場した。今回は名古屋キャンパスに建設されたばかりのR棟を使用し、充実した教育環境を体験してもらった。受験生の保護者にとって、南山大学の特徴が理解できたイベントになったことであろう。



3.21

卒業式

2010年度卒業式が3月21日、日本ガイシホールにおいて行われた。2,163名(学部生2,007名、大学院生156名)の卒業生を社会へ送り出した。ミカエル・カルマン学長は告辞において「最後に皆さんに問います。皆さんは南山大学で何を学んだのでしょうか。[こんな素晴らしいことを彼らはいつか]と、どのようにして学んだのでしょうか」と、私を含めて南山大学の教職員を驚かせるような学びを今後も追求してください。」とメッセージを送った。



7.17

2011年度オープンキャンパス

2011年度オープンキャンパスが7月17日(日)、名古屋・瀬戸両キャンパスで同時開催される(当日は両キャンパス間で無料シャトルバスを運行)。模擬授業※、学科説明会※、河合塾による入試徹底分析、卒業生によるトークライブ、学生スタッフによるキャンパスツアーなどを予定しているほか、相談コーナーでは、学科相談、留学相談、奨学金や就職に関する

相談などを受け付ける。また、瀬戸キャンパスでは特別企画「実験室見学ツアー」などを開催し、来場者には南山大学オリジナルグッズがプレゼントされる。※模擬授業・学科説明会については事前申込が必要。詳細は南山大学Webページ「受験生の皆様」ページを参照。⇒ <http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/index.html>



News

キャリアサポートプログラム 2011春

【学部・学科別学び方講座】(1年生対象)

4月上旬にそれぞれの学部・学科において、新入生対象の「学部・学科別学び方講座」が実施された。この講座は、各学科の基礎学力習得のための心構えと学習の具体的な方法を指導し、必要な学習方法を身につけさせる一助とすることを目的としている。中には、上級生からのアドバイスを含む科目もあった。参加した1年生は、大学での学びに胸を膨らませながら、講義の聴き方やレポートの書き方、専門分野固有の学習方法等についての「学び方講座」を非常に熱心に受講していた。



【夢発見! 講演会】

2011年5月25日、名古屋キャンパスにおいて「[大学での学びと夢の実現]〜将来のキャリアデザインに向けて〜」をテーマに外国語学部ドイツ学科・太田達也准教授による「夢発見! 講演会」が開催された。どうすれば自分のやりたいことが実現できるのか、やりたいことが見つからない人はどうすればいいのか、等についてわかりやすく講演が行われ、学生たちは興味深そうに聴講していた。

【一般常識・職務適性テスト】(1・2年生対象)

2011年6月8日、一般常識および職務適性テストが名古屋・瀬戸それぞれのキャンパスで実施され、今回も多くの学生が受験した。このテストは、就職試験の際に多くの企業が使用しているものであり、本学キャリアサポートプログラムでは1・2年生を対象に毎年春・秋学期にそれぞれ1回学内で実施され

就職支援プログラム(予定)

プログラム名	名古屋キャンパス実施日程	瀬戸キャンパス実施日程
グループ選考対策講座「コミュニケーション能力の習得」	7月2日、7月9日	
マスコミセミナー1「放送・新聞」	7月4日	
エアラインセミナー	7月6日	7月13日
マスコミセミナー2「出版・広告」	7月11日	
第2回 就職ガイダンス	9月21日	9月21日
就職講座5「自己PR」	9月28日	10月5日
就職講座6「志望動機」	10月5日	10月12日
短期大学部 就職ガイダンス	9月14日~11月11日(2012)	全9回実施

【講座紹介】「グループ選考対策講座」について

グループ選考は、企業の厳選採用傾向や、大学生の受検企業の一種集中化に伴い、導入企業が増えている。企業の実施目的には、①採用活動の効率化、②自社に適した人材の見極め、③入社後の即戦力化、がある。実際の仕事の場面に近い姿を観察で

ている。約2週間後に解説書とともに結果が返却されるが、キャリア支援室では希望者に対し、その結果に基づいた進路相談を行っている。次回は10月実施予定。

【キャリア入門A-先輩と熱く語ろう!】

2011年6月15日、社会で活躍する卒業後3年程度の卒業生4名にご協力いただき、先輩として学生時代の体験や社会に出てからの経験等を語っていただいた。学年に関係なく多くの学生が参加し、熱心に先輩の話に耳を傾け、講演後に質問をしている学生も多くみられた。



インターンシッププログラム

2011年4月6日から「インターンシップ研修」(単位付与型)の授業が開始された。2011年度は175名の3年生が履修し、4月から7月まで毎週1コマ授業が行われる。夏期休暇中に1~2週間の研修を体験し、まとめとして9月に個人報告発表が義務づけられている。

この他に、2年生から参加可能な非単位付与型の自己啓発型インターンシッププログラムがあり、6月22日にビジネスマナーとコミュニケーションを中心とする事前セミナーが実施された。



Gerard Manley Hopkins

の詩における表現の研究

山田 泰広

私の研究



やまだ・やすひろ
短期大学部長英語科教授
専攻分野: イギリス文学・イギリス文化研究、
長期研究テーマ: Gerard Manley Hopkinsの詩論、
主要研究科目: TVCMにおける表現、
主要研究科目: Reading I

19世紀イギリスの詩人G.M.Hopkinsの詩に出会ったのは大学3年生の頃で、ある作品の一部が文学史の本に紹介されていたのですが、曇り掛けるような表現の特異さに圧倒された記憶があります。その時から、カトリックの司祭であり、教育者でもあったHopkinsとの長い付き合いが始まりました。

その最大の魅力は独特の表現にあると思います。よって、その表現がどのような芸術観、言語観に基づくのかを解明するのが研究の中心となってきました。例えば、20世紀思想界に大きな影響を与えた言語学者Roman Jakobsonと若き日のHopkinsがともに詩的表現の特徴を平行性の原理に求めたことについて論じたり、ある作品の推敲過程をたどって、推敲が必要とされた理由を検討することでHopkinsが詩を作る方法や拠って立つ原理の解明を試みたり、いくつかの詩で話し手が神に向かって命令文で話しかける場面に注目して、その表現が形式上は2人称への意思の伝達を



南山のDNA DNADNADNADNA

卒業して思う、南山の良さ

岡崎 海一郎 経済学部経済学科 2009年卒業

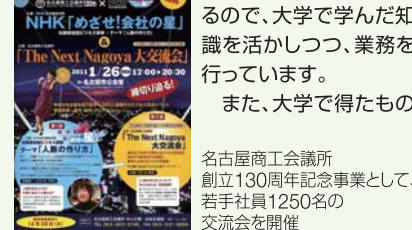


地元企業的发展和地域振興を担う仕事に魅力を感じて、名古屋商工会議所に就職。現在は、企業の経営相談や各種講演会・交流会運営を担当。また、南山大学同窓会理事として、ホームカミングデーの運営や機関誌の作成にも携わる。

各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくブレイク版「南山のDNA」シリーズ、第13回となる今回は名古屋地区内における商工業の振興発展に努めると共に、地域の商工業者の世論を代表する公的な性格を持つ地域総合経済団体・名古屋商工会議所にご勤務の岡崎海一郎さんです。

私は現在、名古屋商工会議所という経済団体にて、市内の企業を中心に金融や労務の名古屋商工会議所は今年で創立130周年を迎え、より多くの企業の方々に利用していただくように行政なども連携して、企業発展を支援していくことが私の仕事です。今年の初めには、創立130周年事業の一環としてNHKの番組と連携し、若手社員1250名の交流会を企画しました。「人脈」をテーマに、様々な方々と知り合うことができ、運営者として貴重な経験をさせてもらいました。

振り返ってみると、南山大学は私に様々なチャンスを与えてくれました。今年入学された方にも今年一年が最後の学生生活になる方にも、講義をしてください先生がいっぱいいます。大学生活をサポートしてくれる先輩や職員の方々がいっぱいいます。それを当たり前のごとで過ごすのではなく、上手に利用することで新たなチャンスが生まれると思います。講義だけでなく、課外活動や就職活動でも自分の興味をもったことを実行できる環境が南山大学にはあると思います。在校生の皆さんも、大学を活用して多くの経験を積んでください。



名古屋商工会議所 創立130周年記念事業として、若手社員1250名の交流会を開催



卒業後初のゼミ交流会を開催(筆者:左から4人目)